



会員レポート
「構造設計者の資格制度と
JSCAの将来」

（一面からの続き）
■記念講演会について
 平成20年6月6日の午後3時～5時までは記念講演会として（社）日本建築構造技術者協会会長 木原碩美氏による「構造設計者の資格制度とJSCAの将来」というテーマについて講演を頂いた。参加者は100人であった。
 講演の前半では「耐震偽装事件と建築行政改革の概要」について

- ・構造計算偽装事件概要
 - ・事件再発防止建築行政改革
 - ・審議会報告書とJSCA総括
- について講演を頂いた。

後半では、「建築構造設計者資格制度とJSCA」について

- ・資格問題の経緯
- ・一級建築士の業務独占権限
- ・偽装事件後改革と構造設計一級建築士
- ・構造設計者の資格
- ・新資格制度移行期の処置
- ・新資格制度 今後の予定
- ・事件再発防止改革を経て今思うこと
- ・改革の画龍点睛のためのJSCAがなすべきこと
- ・JSCAの将来と資格制度
- ・JSCAの将来
- ・報酬問題

等について講演を頂いた。



第11回通常総会懇親会
 懇親会で挨拶される木原会長

姉歯事件以来の再発防止建築行政改革におけるJSCA案の提示と他団体との攻防が如何に困難を極めたかを十分理解できる説明を頂いた。
 また、以下のような質疑がなされた。
 ・業界は細分化、分業化されている。構造種別、建物用途、工法 などにおける専門性を考え、JSCA認定の専門家を設けることも必要ではないか
 — 今後考えてゆくべきことと認識している。 —
 ・構造計算等のプログラム作成エンジニアも構造技術者ではないのか。
 — 取り扱いについて申し入れをしてゆく。 —
 ・構造設計者に対する報酬規定の見直しとともに、その規定を如何にしたら順守することができるかを考える必要がある。

会員委員会定期便

J S C A千葉「見学会」を10月頃に予定しています。
 （明智・斉藤・相山・榊原・答谷）

—関係者が十分認識をしてゆくことが必要である。 —
 ・適合性判定におけるクレームが多い。特に回答ができないような無理な質疑があるとの連絡を受けている。
 —適合性判定に対する問題がありましたら、JSCA本部にFAXでも結構ですので申し入れをしてください。 —
 （園部 隆夫）

銚子市の飯沼観音五重の塔造営の工事の見学会

有限会社西原建築設計事務所 西原 忠

平成20年8月1日午後2時現地に集合し、まず現場事務所にて大成建設の所長さんより説明を聞く。私は故郷でもあり、子供時代にはたくさんの思い出があるこの飯沼観音に五重の塔が建つと聞いて大変興味深く聞いた。



最上層（北側には利根川が望める）九輪は未施工

主体構造は鉄骨造で木造の屋根と壁等の周辺部を支える床（コンクリート）と鋼管の柱及び鉄骨梁架構によって組み上がっている。
 工事は既に木工事が最上層の屋根部まで進んで、造作は総吉野檜造で最終段階に来ているようだ。屋根工事や、塗装工事又装飾物も下から進んでいる。工事は今年一杯で完了とのこと。
 次に現場の見学に入った。屋根の架かった独特の仮設でいつもとは違って少し緊張気味であったが、気さくな感じで所長さんが説明してくれたので、かなり気楽に質問ができた。
 木造の木組みや装飾的な話しなどが多く、構造的にはほとんど質問が出なかったものの、木の持つ軽やかさや、繊細さまた美しさも感じられ、学生時代に始めて受けた授業のような感動を受けたのは自分だけではなく、かなり皆さんも興奮気味の感を受けたように思いながら現場を後にしました。
 （追記）私個人としては、全て木造で作って欲しかったが、地図に載る仕事ということで、全力を傾けていた所長さん以下、職人さん達の姿も輝いて見えた。きつと立派な塔が完成して来年の正月には、近郷近在から五重の塔のお参りで大賑わいになるのが目に浮かぶ。もちろん私もお参りに行くつもりです。

安田：J S C Aにはどんな感じをお持ちですか？
 宇野：有り難いと思っています。よく呼ばれて挨拶させられるけど、一番大事な会だよね。ちゃんと建築家として存在するための、バックボーンではないですか。例えば東京国際フォーラム有りますよね、ラファエル・ヴィニオリがああいう設計したってね、渡辺邦夫という人がいないとあんなガラスの箱はできませんよね。非常に知的な作業だと思います。そういうことやってくれるのは、構造屋さんですよ。とりもなおさずJ S C Aのメンバーってことになります。僕らはアイデアを出すけれどいっしょに考えてかなえてくれるのはJ S C Aのメンバーって思います。（拍手）

今日はその意味でね、ジエノパのねレンゾ・ピアノの写真を見て下さい。彼は海の中に基礎を造り、ワイヤーを逆に引っ張って、遠くから見てこれがじゃまにならないですよ。海の中だからこれがマストに見えます。こういうのはね、構造デザインですよ。素晴らしいよね。構造は素晴らしいと思う。

もしかしたら僕もなっていたかもしれないけど、デザインの方にね来ちゃった。これと同じような緊張感は国際フォーラムの柱にもあると思うね。ガラスの箱にね。
 安田：現状の問題ですが、J S C Aと建築家協会のコラボでいかないと停滞が打破できないんじゃないのっていう危惧があります。

構造技術者の不足というか、余計な仕事が増えたことでの停滞の対策案ですが、市役所の掲示板に、譲ります・譲って下さいってありますよね。構造も建築家もね、そういったメッセージを発信・受信する場が欲しいですね。

宇野：そうですね、普段の交流はもっとあっていいのかなって。さっきも言いましたが顔が見えないとね。意匠の人でもねあの人何やってるんだろうか。あいつあんなのが好きなんだ、こういうの得意なんだとか。お互い刺激するっていうか、そういう場があるといいですね。

安田：ホームページを活用できませんか。J S C AのHP委員長の加藤さんがいますけど。
 加藤：構造側からも、こういう案件が得意だとか、こういうことで困るとか、誰か手助けしてくれませんかとか。両方見て分かるようなね、一つそういうページを作ってみようか。

宇野：J S C Aどこで会議されてます？。ダブルこと考えませんか。今度銚子の五重塔の見学会有りますが、人数多いからJ S C Aと意匠屋さん別の日になったって。これを半々にするとかね。お互いの視点があるから。交流することがいいかもね。
 安田：交流方法の具体論をお願いします。

宇野：耐震でもパターン化できないものがでてきたとき、お互いのスムーズな協力が必要になります。事務局の出入りももっと開放的にして、意見交換しやすくするといいですね。

それと設備の人なんかもいましてね、県の指導課、営繕課、施設改修課等と話合っています。土法や景観の問題だとか、設計料率や期間の問題だとか。建築会館に設備屋さんも入ってくればね、話が見えやすいと。あと若い人の育成が必要ですね。

一緒に、年何回か決めて、今週は構造やろうとか講習会の開催。優秀な講師いっぱいいらっしゃるから。まずは知り合うことが必要ですね。
 （中略）

富島：免震のことをちょっと、君津に中央病院できてね。あれが免震で、こっち方面に免震が普及するかなと期待してましたが進まない。知り合いの病院関係者に免震を宣伝してるけど、宇野さん達のお力があって病院に免震が広がってゆけばと期待



セсна機がくぐれそうな「袖ヶ浦さつき台病院」の立体橋

しています。
 答谷：この前東北の病院が免震構造でしたが、病院は医療機器が高価なので免震がいいよね。
 宇野：進まないのはねコスト、そして手続きの時間。病院の場合は時間が勝負なんですよ。民間の場合は。スタートしたらいかに短時間で仕上げようということがあります。免震はいいものだけど、制度にスピードがない。

いま医療費が非常に低いので、経営も大変。免震にしたら国から補助がでてコストが95%でできるとか、J S C Aもその辺のことをやれたら良いかもしれないね。
 富島：私立病院といえども準公的建物ですよ。ね。

答谷：耐震診断・改修に補助だすのと同じじゃないかな。地震の時に被災して機能しないっていうのじゃ困る。

宇野：ここの病院の場合、免震も検討したけど、コスト、時間の問題でできなかったのです。他が潰れてもここだけは残そうと言うことで構造耐力を25%アップしました。
 （ティータイム）

安田：では結論で無くてよいですが、最初にお願した話題に移ります。

答谷：J I Aの中で構造設計者不足の問題はありませんか？
 宇野：ありますね。こないだ、ある人が構造設計者を求めて全国の事協に聞き回ったとか。僕は実施設計やらないといけなから。仲間内でも耐震診断に人を捕られて構造設計者がいない、これじゃ困るよね。

答谷：構造やってても、パートナーとして責任を分担してやっていけるような人と仕事したい。あまりいなかったの。
 安田：パートナーシップでやってこれた所は多くないと思います。大部分は下請けでやらざるを得ないのね。（時間的に助言できない状態も多い。）

富島：一般論の話、仕事はいつもあそこに頼めばなんとかやってくれるっていう信頼感が薄れてきていて、今回は勘弁してとかそういう。忙しいけどなんとかやってくれるよっていうのが薄れている。

加藤：仕事が多すぎるんですよ。付き合いのある方っていうのは優先しますが、この仕事をこなすだけでも大変。圧倒的に人員が足りない。特に若い人が。

安田：交流する上では飲み会が必要じゃないかなと（笑）。
 富島：役員会ある時は、だいたい飲み会。月に1回は勝手なことを言い合ってます。

加藤：おおいにやったら良いですね。
 宇野：だからそういう交流しながら若い連中を巻き込んで一丁やろうかって。どうしたらいいんでしょうね。

加藤：そのためには我々、年上連中がしっかりチームワークをくまなければいけないと思います。その中で青年部会的なものを作って、ね。

安田：会長にはインタビュー受けたよって報告して頂けたら、交流のきっかけができると思います。今日は長時間、有り難う御座いました。
 （広報委員会）